

「国家ビジョンを語る」

－東日本大震災からの復興、その先を見据えて－

2011/04/18

【開催趣旨】

東日本大震災に直面した日本社会には様々な言説が流れています。避難所の情報を伝えるツイート、福島第一原発の問題について指摘する新聞記事、復興プランを提唱するオピニオン。

自分達の考えを自らの手で実現するためには、自分達が社会のプレイヤーとして登場する必要があります。登場するためにも、自分達の存在を世に示す必要があり、そのためには言説や行動によって社会にアピールすることが効果的な選択であると思います。

日本の次代を支える若者としては、震災からの復興に一助するのみならず、復興から先の日本を支えることを考えていきたいと思うところです。

そこで第 15 回・第 16 回勉強会では、果敢にも「国家ビジョン」を語ることを主目的に行うことと致しました。経験に乏しく、学識も浅い若者が「国家ビジョン」という大上段の議論をすることは時期尚早とみられるかもしれませんが、しかし、「国家ビジョン」を語ろうという気概が無ければ、国家を担う気概も生まれることはありません。

また、時を同じくして社会に歩みだす仲間が大いに議論することによって、互いの思考を吟味できる、その経験を共有することで信頼ある団結を生み出すことが出来るという効果を生み、さらなる議論の展開を期待できるという正のスパイラルを生み出すことが期待されます。

とはいえ、私たちの語ることが単なる思い込みではないのか、現実的なのかといった点をチェックする努力を怠ってはなりません。自分自身で考え続けること、議論をとことん行いお互いの思考を良く吟味すること、信頼できる外部の人々や先輩とのコミュニケーションをすること、その上で世に出して世の批判に真摯かつ巧妙に対応することが重要であると考えています。

【開催形式】

- ・有志の参加者には事前に「国家ビジョン」を用意していただく（配布資料含）。
- ・「国家ビジョン」であれば何でも良い（その定義、理解も含めて参加者に委ねる）。ただし、東日本大震災の復興には触れること。

- ・各回について

- 第 15 回勉強会（2011 年 5 月 21 日）

- ・発表者によるプレゼン及び質疑応答

- 第 16 回勉強会（2011 年 6 月下旬）

- ・第 15 回勉強会を踏まえて、各ビジョンについて議論を継続。

- ・必要に応じて議論の土壌となる題材（事例とは限らない。哲学題材もありうる）を用意。

以上の議論を踏まえて、2011 年 7 月～8 月に「会のビジョン」を代表より提唱する。

Cubic Argument 代表 大江 弘之